

こえのリサイタル

うつすともうつるとも～ミメーシスの形～

1. Das Lachenmann Ivb (新版初演) / 川島素晴

Bass Cl. 西村薫

Vo. 薬師寺典子

2. A Flower / John Cage

Vo. 薬師寺典子

3. Pub I et II / Georges Aperghis

Vo. 薬師寺典子

4. Les 7 crimes de l'amour / Georges Aperghis

Perc, Vo. 會田瑞樹

Cl, Vo. 西村薫

Vo. 薬師寺典子

- 休憩 -

5. ぽりぷろそぼす I V

Vo. 薬師寺典子

作品紹介

1. Das Lachenmann Ivb (新版初演) / 川島素晴

本来はサッパスリコーダーとカウンターテノールのための作品ですが、作曲者の川島素晴さんをお願いしてソプラノとバスクラリネットバージョンに編曲していただきました。

2017年3月にスイスのコンテンポラリーデュオ UMS'n JIP が東京で初演して以来、イギリス、スイス、メキシコなど世界中でこれまでに約50回再演されています。唸り声、コールガール風セクシー笑い、明石家さんま笑い、中村玉緒笑い、等様々な笑いが散りばめられている、笑いのコレクション本のような作品です。

2. A Flower / John Cage

私がジョン・ケージの作品の概念を学ぶ機会になったのは、作曲家ダリル・ゼミソンさんの企画「アトリエ・寂」でケージの龍安寺を演奏させていただいた時でした。演劇の世界ではよく、「舞台上では赤ん坊と動物には役者は勝てない(観客はどうしてもそれらに目を奪われてしまう)」なんて言いますが、ケージ作品の偶然性はそれらに近いものを感じます。この Flower という作品はとてもシンプルなヴォカリーズで歌われますが、これこそが花の概念の模倣なのだと解釈しています。作品の中盤には「鳩のように」や「野生のカモのように」といった、屋外の自然の情景描写的な表現が求められています。

3. Pub I et II / Georges Aperghis

Pub とはフランス語の Publicité の略で、「広告」という意味です。I は「鉄分ビタミンたっぷり」で「B6, B2, B12 が豊富」、「ハチミツを入れてかき混ぜ」、「絶対に試すべき」ある健康食品の宣伝の描写が描かれています。II は「Flow sweet」というお掃除代行サービスが、侍のごとく一瞬のうちに部屋をきれいにし、「様々な使用方法」、「ファムファタルもびっくり」なサービス内容を宣伝します。実際テレビコマーシャルの情報量はすさまじく、1-2分という尺の中に様々な音が登場します。この作品の面白いところは「広告」の模倣が、社会風刺的にどこか皮肉に感じるところです。

4. Les 7 crimes de l'amour / Georges Aperghis

「七つの愛の大罪」というタイトルのこの作品は、あらゆる愛の罪のシチュエーションがオムニバスのように詰め込まれています。キリスト教における七つの大罪は「七つの死に至る罪」という意味で、「罪そのものより人間を罪に導く可能性がある」と見做されてきた欲望や感情を指すもの」(Wikiより)

楽譜には三人の演者の全てのジェスチャーが事細かに書かれ、楽器奏者も声を出すことを要求されます。演劇的要素がいかにこの作品において重要な位置を占めているかを伺い知ることが出来ます。I Vのみ、「音楽のレッスン」という小題が付けられていますが、私たちは今回の公演にあたり、前述の七つの大罪を参考に各セクションにテーマを当てはめました。

I. 嫉妬 II. 強欲 III. 色欲 IV. 憤怒 V. 無関心 VI. 被虐 VII. 回想

5. ぼりぷろそぼす IV / 川島素晴 言葉：安齊 慶太

「一人の中にある 10個の人格を 10個の単語で表して それに短い詩をつける。その詩にインスパイアされた曲を単語として歌う。

100個の歌の集合体。詩は歌わないの。詩は曲と並列。歌うのは詩の題名。

私の中に住み着いた

吊い男 と 踊り場少女

父の影 と 母の声

狼男 と 猫娘

博士 と 家のない老婆

仮面の男

そして、「ワタシ」

誰の中にもあり得る他者。

異常性はないのです。

沢山の人格が普通の人の中にもあるのです。

統合されて行くのが、大人になることかもしれません。」(安齊 慶太氏より)

演劇は大きな嘘で、模倣である。私たちは模倣によって他者に触れ、また自分の中の他者を発見する。それは音楽も同じではないのか？という発想から今回の演奏会のテーマであるミメーシスを思いつきました。

このようなチャレンジングなプログラムを演奏する機会をくださった歴史あるウィンズカフェの川村龍俊さま、カーザ・モーツァルトのオーナーの中村孝さま、共演者のお二方様、そしてバスクラリネット版への編曲と、演奏に対して沢山のアドバイスを下された作曲家の川島素晴様に深く御礼申し上げます。

●薬師寺典子（やくしじ・のりこ）：声楽家。幼少よりヴァイオリンを習い声楽を始める。東京芸術大学声楽科卒業後、ベルギーで学ぶ。ブリュッセル王立音楽院修士課程、ゲント王立音楽院上級修士課程、現代音楽科修了。ベルギー政府給費奨学金奨学生、野村財団奨学生。これまでにリエージュ王立歌劇場ラヴェル作曲オペラ「子供と魔法」子供役、ロンドン・マッキントッシュアートセンター、モンテヴェルディ作曲オペラ「ポッペアの戴冠」ヴィルトゥ役、東京イタリア文化会館松平頼暁作曲オペラ「挑発者たち」（世界初演）等のオペラに出演。現代音楽を主なレパートリーとし、ベルギー現代音楽祭アルス・ムジカ、スペイン・シルガ現代音楽祭等の音楽祭に出演。TWS(現,TOKAS)で企画が選出され東京文化会館小ホールにてリサイタルとオノマトへのワークショップを行うなど、自主企画によるコンサートにも力を入れている。本年9月には自身が企画者として携わった、高橋宏治作曲、現代室内楽オペラ「Amidst dust and fractured voices」（塵と砕けた声のなか）をゲント・Miryホールで初演。その後ブリュッセルのPhaino芸術祭において再演、演奏・企画と共に高い評価を受ける。ヴォカリーズ作品を集めたCD「Mnemosyne」発売中。<https://noriko.yakushiji.be/ja/>

●會田瑞樹（あいた・みずき）：ヴィブラフォン／打楽器奏者、作曲家。金属の音盤が敷き詰められた幻想的な響きを持つヴィブラフォンを中心に国内外で演奏活動を行っている。2010年日本現代音楽協会主催「競楽IX」第二位入賞と同時にデビュー以降、これまでに200作品以上の新作初演を手がけている。ソリストとして東京交響楽団、中国国家交響楽団、リトアニア・聖クリストファー室内合奏団との共演、3枚のアルバムは朝日新聞/レコード芸術特選盤などを獲得し高い評価を得た。2019年第10回JFC作曲賞入選を得るなど作曲家としてもその頭角を現し、2020年10月リトアニアにおいて自ら作曲を手掛けた弦楽合奏とヴィブラフォンのための協奏曲《Chant/Sutartines》が世界初演。全世界に中継され絶賛を博した。本年11月3日、4枚目となるソロアルバム「いつか聞いたうたヴィブラフォンで奏でる日本の叙情」をリリース。郡山女子大学短期大学部非常勤講師。<http://mizukiaita.tabigeinin.com>

●西村薫（にしむら・かおる）：クラリネット奏者。東京音楽大学卒業。ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。その後フランスに留学し、野村財団の助成金を得ながら、オーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方音楽院等で研鑽を積む。クラリネットを三木薫、故内山洋、A.ダミアン、M.ヴェルヴェル、J.コント、即興音楽をP.パニエの各氏に師事。アンサンブル・アルテルナンスの現代音楽アトリエに参加。帰国後はオーケストラへの客演、クラシックや現代音楽の室内楽、即興音楽のライブ活動等をしている。ヤング・クラリネットリストコンクール入選。ランドゥ音楽コンクール（フランス）第1位。現代音楽演奏コンクール「競楽XII」ファイナリスト。練馬区演奏家協会会員。Tokyo Ensemnable Factory 常任メンバー。<http://bgataclarinette.karou.jp>